

審査結果報告書

平成 29 年 1 月 16 日

主 査 氏 名 赤 星 透



副 査 氏 名 阿久津 二夫



副 査 氏 名 緒方 昌平



副 査 氏 名 永井 立夫



1. 申請者氏名 : 安部 学朗

2. 論文テーマ : Brain MRI in patients with acute confusional state of diffuse psychiatric/neuropsychological syndromes in systemic lupus erythematosus
(全身性エリテマトーデスの急性昏迷状態における脳 MRI 所見について)

3. 論文審査結果 :

全身性の自己免疫性疾患である全身性エリテマトーデス (SLE) において、精神神経症状 (NPSLE) は予後にも影響を与える重篤な難治性病変である。本論文は、NPSLE の病態を解明するために、NPSLE の主要な症状である急性錯乱状態 (acute confusional state; ACS) を呈した SLE 36 症例について、頭部 MRI 所見を含む臨床症状、抗 Sm 抗体を含む各種自己抗体や髄液中 IL-6 濃度などの検査所見、さらには ACS 症例の長期予後などを検討したものである。

本論文においては、ACS 症例の半数に頭部 MRI 画像での異常所見が見られ、頭部 MRI 所見で異常が認められた症例では抗 Sm 抗体の陽性率が有意に高いこと、髄液中の IL-6 濃度と MRI 異常所見の有無に関連性が認められないこと、さらには頭部 MRI 異常所見 (+) 症例の予後が異常所見 (-) 症例に比して極めて不良であることが示された。

審査においては、IL-6 と抗 Sm 抗体との関連性、SPECT 検査の意義、MRI 異常所見と病理学的変化との関連性などについて活発な論議がなされた。本論文は ACS を呈した SLE の病態や予後に関する新たな知見を提示していることから、学位論文に相応しい優れた臨床研究であるとの見解で審査員全員が一致した。